

横浜国立大学先端科学高等研究院シンポジウム・シリーズ第17回

Creative Neighborhoods 3



都市の 「余白」

“Spaces of Commoning”から 生まれる人と空間のネットワーク

現在、私たちの暮らす都市空間は、人と社会の関係性がますます希薄になってきており、地域コミュニティは衰退している。横浜国立大学先端科学高等研究院「次世代居住都市」研究ユニットは、この状況を高次の社会リスクとして捉え、その社会リスクに新しい社会の仕組みのデザインとその基盤となる空間モデルの開発・研究を行っている。本シンポジウムは、都市の「余白」とも呼び得るようなパブリックでもプライベートでもない中間的な領域に着目し、“Spaces of Commoning”※を通して生まれる人・モノ・情報をつなぐネットワークがいかにより都市空間や地域社会を再構築していくのかについて、国内外の先進的な試みを実践する建築家と議論し、生活を中心とする都市空間と社会の新たなあり方を模索する。

※“Spaces of Commoning”とは、2015年度からスイス連邦工科大学と進めてきた共同研究のテーマで、住み手や使い手の自発的な行為によって創造される共有空間のことを指す。

あいさつ: 都市の居住環境と脆弱性

佐土原 聡

(横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院長、横浜国立大学IAS教授)

PART1 [14:05-15:40]

現代都市における社会リスクと Spaces of Commoning

「次世代居住都市」研究ユニットの目指すこと

寺田真理子

(横浜国立大学IAS准教授)

連 勇太郎

(横浜国立大学IAS客員助教)

基調講演1:

コモンの歴史的存在と現代における意味

北山 恒

(建築家、横浜国立大学IAS教授、
横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院Y-GSA校長)

基調講演2:

Performative Neighborhoods—
Reassembling Collectives Through Building Practice

Rainer Hehl

(建築家、横浜国立大学IAS上席特別教授、スイス連邦工科大学/
MAS Urban Designシニア・リサーチャー、ベルリン工科大学客員教授)

PART2 [15:50-18:45]

Spaces of Commoningから始まる 地域を再生する新しい実践

Case Study1/特別講演: Building Together

Amica Dall/ASSEMBLE

(デザイナー、プランナー)

Case Study2:

仲 俊治

(仲建築設計スタジオ)

Case Study3:

辻 琢磨

(403architecture[dajibal])

ディスカッション:

人と社会の関係性と地域の自発生を生むコモンズとネットワーク

Amica Dall × 仲 俊治 × 辻 琢磨 × Rainer Hehl

司会

野原 卓

(都市デザイナー、横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授、
横浜国立大学IAS准教授)

コメンテーター

小嶋一浩

(建築家、横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院Y-GSA教授)

2016年3月26日[土] 14:00-19:00 (開場:13:30)

YCC ヨコハマ創造都市センター3階

参加費無料 日英同時通訳付 ※当日先着順でのご入場となります(150名)。

主催:横浜国立大学先端科学高等研究院 横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院

企画:横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院Y-GSA

会場:YCC ヨコハマ創造都市センター3階 〒231-8315 横浜市中区本町6-50-1

みなとみらい線「馬車道駅」1b出口 野毛・桜木口(アイランドタワー連絡口) JR・市営地下鉄「桜木町駅」徒歩5分 「関内駅」徒歩7分

お問い合わせ=Y-GSAオフィス TEL:045-339-4071 E-mail:ygsa@ynu.ac.jp Web:http://www.ygsa.jp



都市の「余白」 “Spaces of Commoning”から生まれる人と空間のネットワーク

あいさつ [14:00-14:05] 都市の居住環境と脆弱性 佐土原 聡

PART1

現代都市における社会リスクと Spaces of Commoning

1:「次世代居住都市」研究の目指すこと [14:05-14:30]

1-1:「次世代居住都市」研究とCreative Neighborhoods

寺田真理子

1-2:Spaces of Commoning研究:

東京とリオ・デ・ジェネイロの比較分析

連 勇太郎

2:基調講演1 [14:35-15:05]

コモンスの歴史的存在と現代における意味

北山 恒

3:基調講演2 [15:10-15:40]

Performative Neighborhoods—

Reassembling Collectives Through Building Practice

Rainer Hehl

休憩:10分 [15:40-15:50]

略歴

寺田真理子 Mariko TERADA

キュレーター。1990年日本女子大学家政学部住居学科卒業。1990-99年鹿島出版会SD編集部。1999-2000年オランダ建築博物館(NAI; The Netherlands Architecture Institute)にてアシスタント・キュレーター。2001-02年(株)インターオフィスにてキュレーター。その後、インディペンデント・キュレーターとして、書籍やカタログの編集、展覧会やワークショップの企画・運営に携わる。2007年より横浜国立大学大学院/建築都市スクールY-GSAスタジオ・マネージャー。2014年より横浜国立大学先端科学高等研究院准教授。

連 勇太郎 Yutaro MURAJI

建築家、モクチン企画共同主宰。1987年生まれ。2012年慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修了。2015年同大学大学院後期博士課程単位取得退学。2012年にNPO法人モクチン企画を設立、代表理事に就任。2015年より横浜国立大学大学院先端科学高等研究院客員助教(「次世代居住都市」研究ユニットに所属)、慶應義塾大学大学院特任助教。

北山 恒 Koh KITAYAMA

建築家、architecture WORKSHOP主宰。横浜国立大学大学院/建築都市スクールY-GSA校長。1950年香川県生まれ。横浜国立大学大学院修士課程修了。1978年ワークショップ共同で設立。1995年横浜国立大学助教授、同年 architecture WORKSHOP設立。2001年横浜国立大学教授、2007年より同大学院Y-GSA教授。現在、横浜市都心臨海部・インナーハーバー整備構想や、横浜駅周辺地区大改造計画に参画。2010年第12回ヴェネチア・ビエンナーレ建築展コミッショナー。主な作品:「公立刈田総合病院」(2002年、共同設計、日本建築学会作品選奨・日本建築家協会賞)、「洗足の連結住棟」(2006年、日本建築家協会賞・日本建築学会賞)、「祐天寺の連結住棟」(2010年、日本建築学会 作品選奨)ほか。主な著書に「TOKYO METABOLIZING」(TOTO出版)、「In-between」(ADP)、「都市のエージェントはだれなのか」(TOTO出版)など。

PART2

Spaces of Commoningと地域を再生する新しい実践

4:Case Study1/特別講演 [15:50-16:30]

Building Together

Amica Dall/ASSEMBLE

5:Case Study2 [16:35-16:55]

地域社会圏低層高密度タイプ、食堂付きアパート、小さな経済の住宅群 仲 俊治

6:Case Study3 [17:00-17:20]

地域をネットワーク化するプロジェクト群

辻 琢磨

7:ディスカッション [17:25-18:45]

人と社会の関係性と地域の自発性を生むコモンスとネットワーク

Amica Dall×仲 俊治×辻 琢磨×Rainer Hehl

司会:野原 卓 コメントーター:小嶋一浩

質疑応答+おわりに [18:45-19:00]

ライナー・ヘル Rainer HEHL

建築家、アーバンプランナー。ETH ZurichでPhD取得。建築・都市計画事務所“BAU”主宰。1973年生まれ。ETH ZürichのMAS Urban Designのシニア・リサーチャー。2010年~13年まで、MAS Urban Designにおいてブラジルの都市開発に関するデザイン・プロジェクトやリサーチのディレクター。2013年からベルリン工科大学客員教授。Diller, Scofidio + Renfro's studio(2003-05年)、OMA(ニューヨーク事務所、2005-06年)勤務。2009年の第四回ロッテルダム・国際建築ビエンナーレで“SQUAT”展、2011年にMoMAで開催された“Small Scale—Big Change, The Architecture of Social Engagement”展に参加。

アミカ・ドール Amica DALL

デザイナー。ケンブリッジ大学で文学を学び、その後、ロンドン大学で人工環境人類学を学び修了。2010年に活動を開始したASSEMBLEの創設者の一人。ASSEMBLEは、18人の建築家、デザイナー、アーティスト、家具職人などから構成される集団で、建築、都市デザイン、パブリック・アート、リサーチ、コミュニティの再構築などに取り組む。Assembleにはボスは存在せず、メンバー全員がディレクターという立場でプロジェクトに関わる。ASSEMBLEは、イギリス・リバプールの廃屋化した住宅群を地域住民と協同して再生するプロジェクト“Granny Four Streets”やグラスゴーの子供の遊び場プロジェクト“Baltic Street Adventure Playground”などが高く評価され、2015年のターナー賞が授与された。

仲 俊治 Toshiharu NAKA

建築家。仲建築設計スタジオ主宰。1976年京都府生まれ。1999年東京大学工学部建築学科卒業。2001年東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修了。2001-08年山本理顕設計工場。2009年仲建築設計スタジオ設立。2009-2011年横浜国立大学大学院Y-GSA設計助手。主な受賞に、第31回吉岡賞、グッドデザイン2014金賞、第16回JIA環境建築賞優秀賞、第11回長野県建築文化賞優秀賞、第44回中部建築賞金賞等、著書に「地域社会圏主義」(共著)。

辻 琢磨 Takuma TSUJI

建築家、403architecture [dajiba]共同主宰。1986年静岡県生まれ。横浜国立大学大学院/建築都市スクールY-GSA修了後、Urban Nouveau勤務を経て、現在は浜松市を拠点に403architecture [dajiba]を共同主宰する傍ら、実践的な教育を提案するメディアプロジェクト・アンテナの企画運営にも携わる。2013年横浜国立大学非常勤教員、2014年名城大学非常勤講師、2015年大阪市立大学非常勤講師および滋賀県立大学非常勤講師。主な作品:「渥美の床」[海老塚の段差]など。2014年「富塚の天井」で第30回吉岡賞受賞。

野原 卓 Taku NOHARA

都市デザイナー、横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授。2000年東京大学大学院(都市工学専攻)修了、設計事務所勤務の後、2003年東京大学助手(助教)等を経て2010年より現職。2015年より横浜国立大学先端科学高等研究院准教授兼任。都市デザインマネジメント(横浜市・大田区ほか)から地域資源を生かしたまちづくり(喜多市ほか)、中山間地域の集落再生(高山市、洋野町ほか)まで、幅広い対象をフィールドとして、都市・地域空間の将来像についての研究・実践を展開している。

小嶋一浩 Kazuhiro KOJIMA

建築家、横浜国立大学大学院/建築都市スクールY-GSA教授。Catパートナー。1958年大阪府生まれ。1984年東京大学大学院修士課程修了。同大学院博士課程在学中の1986年にシーラカンス(のちC+A、2005年よりCAI)を共同設立。1994年東京理科大学助教授、2005~11年3月同大学教授。2011年横浜国立大学大学院Y-GSA教授。主な作品:「千葉市立打瀬小学校」(1995年、日本建築学会賞)、「ホーチミンシティ建築大学」(2006年、Global Holcim Awards Silver 2009)、「柿畑のサンクンハウス」(2010年、2014年日本建築学会作品選奨)、「宇土市立宇土小学校」(2011年、第26回村野藤吾賞、日本建築家協会賞ほか)、「流山市立おたかの森小・中学校 おたかの森センター こども図書館」(2015年)、ほか作品多数。